



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年6月6日 Vol.13



写真1：サッカー競技



写真2：ボードゲーム

2023 年 10 月 14 日、この日は Sports day といって、Karibib に住んでいる成人が団体ごとに登録し、陸上競技やサッカー（写真1）、ドミノ、ボードゲーム（写真2。スポーツ以外の競技もあり、スポーツが苦手な人でも気軽に参加できるようになっていました）で勝敗を競うイベントが開かれました。この日、自分は ①100M 走、②400M 走、③4×100M リレーの3種目に出場しました。



写真3：100M 走

まず、開幕は 100M 走です（写真3）。この種目は4人で一斉に走ります。自身の対戦相手ですが、3人ともアルコールがものすごく好きなんだろうなということを体現しているかの如くのビール腹に裸足の方々でした。そのため、いくら相手がアフリカ人といえど、対峙した時は“さすがに負けることはないな”と勝利を確信していました。というのも、その見た目も然りですが、一方で多少のブランクがあるとはいえ 10 年近くサッカー歴があり、教員になった後も高校生と一緒に試合に出場し、小学校の運動会でもリレーのアンカーを務めた程の自分が、陸上靴まで履いているというまさに鬼に金棒な状態だったからです。「もしこれで負けたら、帰国しよう」と固い誓いを立て、周りの歓声に応える強者の余裕さえ見せながらスタートラインに立ちます。位置について、ヨーイ、ドン。その後は自分が思っていた通りの展開で、晴れて1着になる、、はずでした。ところが実際は、4着！？大学院時代の研究を彷彿とさせるように、シミュレーションと打って変わっ

てバグが起きました。何より体重は向こうの方が圧倒的に重いはず、にも関わらずなぜかスタート直後からぐんぐん離されていったのです。今までにこのような経験がなく、2024 年になった今でもその答えは分かりません。ただ、ゴール直後は酸素が薄いことと久しぶりに全力疾走したこととで軽い酸欠状態に陥り一旦フェードアウトしたこと、またあれ程固く立てた誓いを誰にも知られぬうちに無かったことにしたこと等、いつになく幸先の良いスタートを切れたことだけは鮮明に覚えています。



写真4：4×100M リレーの出走前



写真5：合間の子どものサッカー

しかし、こういう日に限ってプログラムは滞りなく進みます。休憩も束の間、すぐに次の400M 走の出番がやってきます。しかもこの競技、走れる人が誰もいなかったにも関わらず配属先がエントリーをしてしまったという荒業をやったお陰で、当日急に自分に出番が回ってきたものでした。注文していない商品を送り付けられた気持ちでした。足はフラフラでしたが、なかなかできない経験ということでヨロコンデ参加させていただきました。ここでも案の定、スタートからどんどん離されていき100M 走った地点で3位のひとと15m 近く差をつけられた最後尾を走っていました。ゴールまでの道のりが果てしなく遠かったですが、皆の声援に応えるべく、一生懸命走りました。するとどうでしょう、またしてもバグが起きました。なんと着順は2位。さて、この間に何が起こったでしょう？

実は2位と3位だった人が、1着になれないと分かった時点でドロップアウトしてしまったらしく、気付かずに走っていた自分がそのまま繰り上げしたというカラクリです。少年漫画の主人公のように能力が何か覚醒したのかと思った皆さん、ごめんなさい。そんなことはありません。ただ、ゴールしてみても人生の縮図のようなものだと思いました。というのも、例えば年のはじめに「今年は〇〇を毎日する」と決めたとしても、当然気分が乗らない日も来るわけで、そういった日を境に今まで継続していたものを辞めてしまう人は案外多いのではないのでしょうか。これは日本の生徒もこちらの生徒を見ても何度も思うことがあります。“あと少し続けていれば化けるのに...” そう思っても、少し壁があると途中で諦めてしまう子が少なくありません。そのまま走っていれば、あと少しでメダルを獲れたにも関わらず、リタイアしたばかりに手の届かないものになってしまうという似たような光景を何度も目の当たりにし、その度に何度もったいたいと思ったことでしょうか。確かにどこかで見切りを付けなければならない場面もあるとは思いますが、ただ、自分

の人生をかけてでも取り組みたいことならば、投げ出す前に次どうすれば上手くいきそうかを考える習慣をつけて欲しいということは、まずは日本語クラスの生徒から伝えていければと思いました。また自身の活動においても、今回の陸上のように足が速いといった何か突出した能力が自分にあるわけではないため、思考→実行を愚直に繰り返して自分の帰国後も配属先に実を結ぶ何かを見つけられる試みだけは続けていこうと決意を新たにしました。このように、ひょんなことから出場することになった種目でしたが、思わぬ形で自身の活動に関して再考し、学びまで得たい機会となりました。また、これはケガの功名ですが、あまりにも断トツの最下位を走っていたため、かえって自分を知らない人にも名前を覚えてもらえました。そのため、ロケーションエリア（Vol.4 参照）に行っても、“Hi, Mr. Taka”などと声をかけてもらえる場面は増えましたね。

さて、最後の種目はリレー（写真4）です。屈強な体つきから速そうな人たちが集まっていることは想像に易いですが、この写真を見て違和感がありませんか？撮影者は自分で、走者も自分です。そうです、酸欠で頭が回らなさすぎて、出番があることをすっかり忘れていました。撮影しながら走者を追っていき、自分の番になってようやく自分も走者であることを思い出したため、結局この種目でも400M走り、隊員としての決意を再度新たにすることはいい思い出です。この会場でおそらく一番走ったのではないかと思います。競技の合間も子ども達がサッカーをしており（写真5）、本当にこの国の人たちはサッカーが好きだなと思いました。次こそはスパイクを手に入れてサッカーをしたいです。

最後に、競技以外では、配属先の人たちと鍋を作りました（写真6）。骨付きの牛肉にジャガイモ、人参、玉ねぎを入れて煮込んだものです。味は少し甘味を抜いた肉じゃがに近かったです。以前もローカルフードを作ってもらいましたが（別の機会にまた紹介させていただきます）、本当に皆料理が上手です。外部の人もわんさか集まり、大変人気でした♪



写真6：配属先の人たちと作った鍋



写真7（左）・写真8（右）：配属先の人たちとお揃いのポロシャツで

また、配属先ではお揃いのポロシャツを作っており（写真7・8）、結構気に入っています。食事中は彼らとずっとダンスをしていました。丸一日で疲れましたが、いい経験になりました。

次回：10月に卒業式！？卒業式の様子と卒業後の生徒の進路について紹介します！